

平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」の結果について〈資料〉

平成31年4月18日（木）に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」（以下「全国調査」）について、京都市立学校の状況をお知らせいたします。

毎年度実施されている国語、算数・数学の平均正答率は、小学校及び中学校とも、全国の公立学校の平均（以下「全国平均」）を上回る結果となりました。今年度初めて中学校調査で実施された英語においては、全国平均と同等の結果となりました。

1 調査の概要

- (1) 実施日 平成31年4月18日（木）
- (2) 対象学年 小学校第6学年，小中学校第6学年，総合支援学校小学部第6学年
中学校第3学年，小中学校第9学年，総合支援学校中学部第3学年
- (3) 実施教科等
- ① 教科（国語，算数・数学，英語※中学校のみ）に関する調査
今年度調査から，従来の「主として知識に関する問題（A問題）」と「主として活用に関する問題」（B問題）が統合され，知識・活用に関する問題が一体的に出題されています。
 - ② 児童生徒質問紙調査 生活習慣や学習環境等に関する調査
 - ③ 学校質問紙調査 学校における指導方法や教育条件の整備の状況等に関する調査
- (4) 実施市立学校数・参加人数

	実施学校数	参加人数
小学校調査	163校（小中学校6校・総合支援学校1校含む）	9,982人
中学校調査	73校（小中学校7校・総合支援学校1校含む）	8,729人

2 教科に関する調査の結果について

(1) 小学校調査

小学校の平均正答率は，全国平均を国語は3.2ポイント，算数は1.4ポイント上回り，約9割に及ぶ問題で全国平均と同等・上回るなど，良好な結果となっています。また，本調査が開始された平成19年度以降，全国平均を上回っています。

また無解答率については，2教科とも全ての設問において，全国平均と同等または下回る結果となっており，子どもたちが最後まで諦めずに粘り強く解答しようと取り組んだ姿勢が伺えます。

一方で，算数の「図形」領域は全国平均と同等ですが，「図形の構成」と「除法」の技能の問題において課題も見られます。

◆公立学校の平均正答率・指数

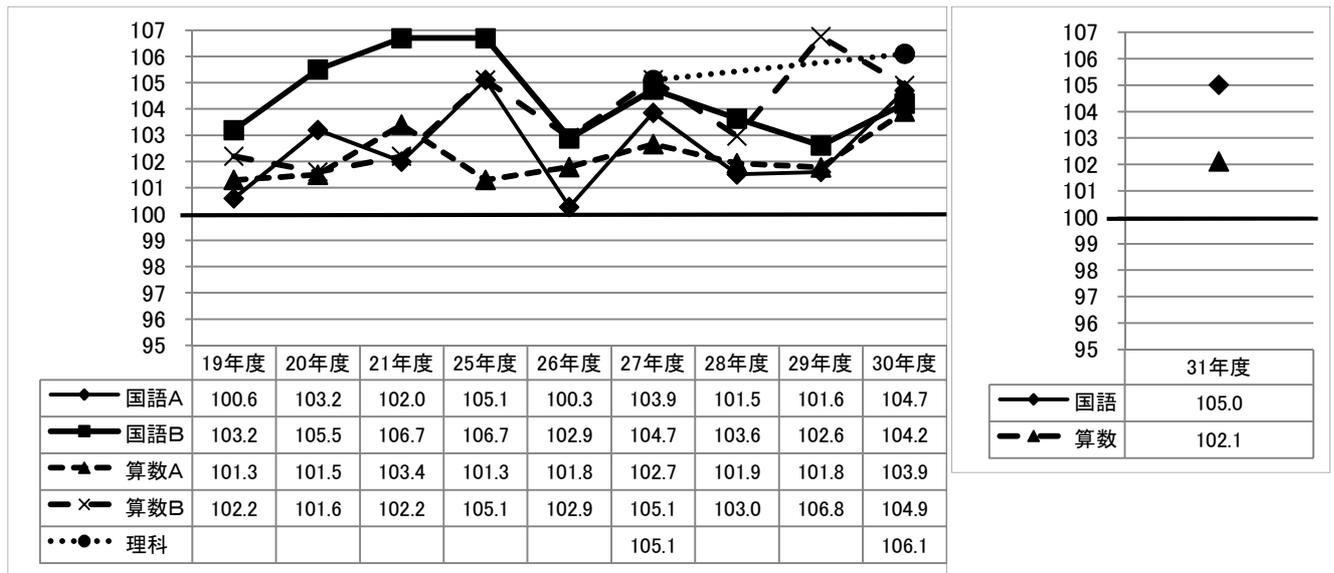
	国語			算数		
	平均正答率	指数	標準偏差	平均正答率	指数	標準偏差
京都市	67 (+3.2)	105.0	3.3	68 (+1.4)	102.1	3.1
全国	63.8	100.0	3.4	66.6	100.0	3.1

※ 指数…全国（公立）の平均正答率を100とした場合の京都市の平均正答率の値

※ 京都市の数値の下の（ ）内は全国値との差

※ 標準偏差…集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。
標準偏差が0とは，ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

◆本市の指数の経年変化



※ 平成 22 年度，24 年度は抽出調査のため除く。平成 23 年度は東日本大震災のため中止。

※ 理科（小・中）は H27 以降，3 年に 1 度実施。

※ 平成 31 年度（令和元年度）調査より，従来の A・B 問題が統合されたため別表とする。

◆分析・問題例

<国語>

- 平均正答率は，全 14 問中 13 問で全国平均を上回り，全体では 3.2 ポイント上回っています。
- 全領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）で全国平均を上回り，特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域においては，全国と比べて高い正答率でした。
- 漢字を文の中で使う問題で，特に「同音異義語」の問題において課題が見られました。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

■大問 2 疑問に思ったことを調べ，紹介し合う（「食べ物の保存」）

- ・一（2）目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読む問題
正答率 **79.6%**（全国平均 **75.9%**） 無解答率 2.9%（全国平均 5.0%）

■大問 3 地域で活躍する人を紹介する（豊職人へのインタビュー）

- ・三 話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめる問題
正答率 **76.5%**（全国平均 **68.2%**） 無解答率 8.6%（全国平均 14.2%）
- ・四 ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いる問題
正答率 **77.4%**（全国平均 **73.0%**） 無解答率 5.1%（全国平均 7.9%）

全国平均を下回るか上回るものの正答率が低い等，課題と認められる問題例

■大問 1 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

- ・三 目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く問題
正答率 **31.6%**（全国平均 **28.8%**） 無解答率 2.4%（全国平均 3.8%）
- ・四（1）ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題
正答率 **39.3%**（全国平均 **41.9%**） 無解答率 7.1%（全国平均 8.2%）

※同じく漢字問題でも全国平均を大きく上回るものもあります。（大問 1 四（1）ウ）

<算数>

- 平均正答率は、全国平均を1.4ポイント上回っています。
- 領域別では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」において全国平均を上回り、「図形」では全国平均と同等の結果となっています。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてで全国平均を上回っています。
- 一方で、「図形の構成」と「除法」の技能の問題で課題が見られます。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

■大問 1 図形の構成と筋道を立てた考察（台形）

- ・(3) 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できるかを問う問題
正答率 **49.1%**（全国平均 **43.9%**） 無解答率 5.4%（全国平均 6.7%）

■大問 2 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること（水の使用量）

- ・(3) 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できるかを問う問題
正答率 **55.2%**（全国平均 **52.1%**） 無解答率 1.5%（全国平均 2.0%）

■大問 3 計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）

- ・(4) 示された除法の式の意味を理解しているかを問う問題
正答率 **51.7%**（全国平均 **47.0%**） 無解答率 1.3%（全国平均 2.2%）

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

■大問 1 図形の構成と筋道を立てた考察（台形）

- ・(2) 図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができるかを問う問題
正答率 **60.0%**（全国平均 **60.3%**） 無解答率 0.6%（全国平均 0.6%）

■大問 2 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること（水の使用量）

- ・(2) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることが出来るかを問う問題
正答率 **77.9%**（全国平均 **78.6%**） 無解答率 0.8%（全国平均 1.0%）

(2) 中学校調査

中学校の平均正答率は、全国平均を、国語は0.2ポイント、数学は1.2ポイント上回っています。平成26年度以降、両教科において全国平均を上回っています。また、今年度初めて実施された英語の平均正答率は、全国と同等の結果となっています。さらに、約6割の設問において本市の無解答率が全国平均を下回るなど、子どもたちが最後まで諦めずに解答しようとする姿勢が伺えます。

一方で、全教科概ねすべての領域で、平均正答率が全国平均を上回りましたが、国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域は全国平均と同等、英語「聞くこと」領域は全国平均を下回っています。

※ 英語は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の調査が行われましたが、参考値として正答数、正答率の全国平均のみ公表された「話すこと」を除く3技能について、分析を行います。

◆公立学校の平均正答率・指数

	国語			数学			英語（3技能）		
	平均正答率	指数	標準偏差	平均正答率	指数	標準偏差	平均正答率	指数	標準偏差
京都市	73 (+0.2)	100.3	2.4	61 (+1.2)	102.0	4.2	56 (±0)	100.0	3.9
全国	72.8	100	2.4	59.8	100	4.2	56.0	100	3.9

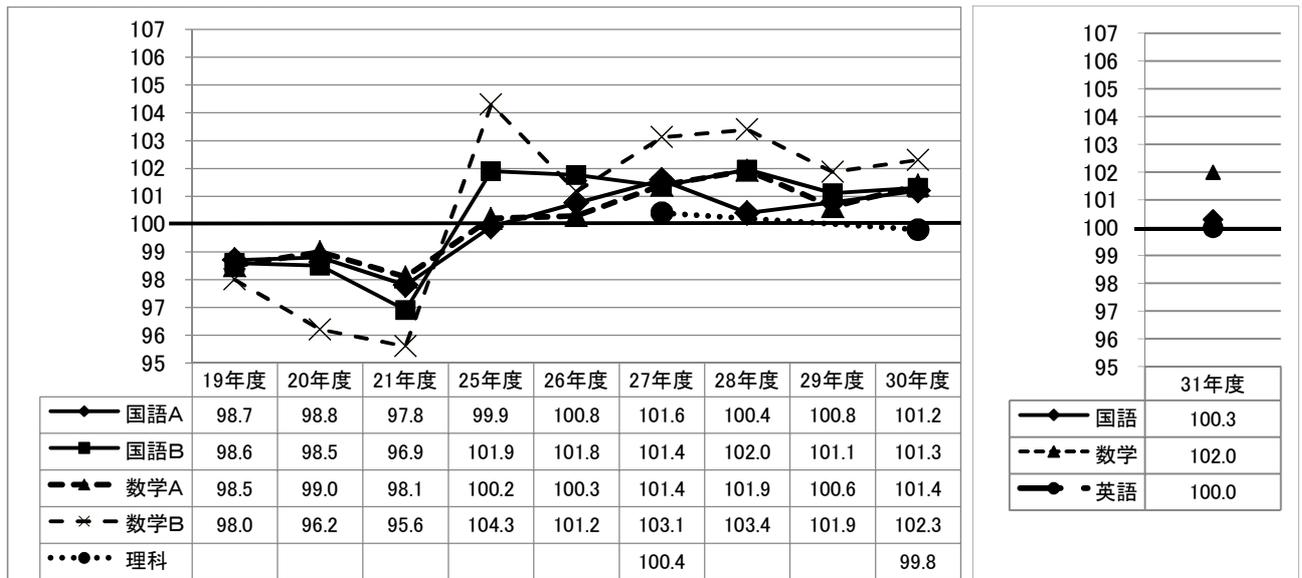
※ 指数…全国（公立）の平均正答率を100とした場合の京都市の平均正答率の値

※ 京都市の数値の下の（ ）内は全国値との差

※ 標準偏差…集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。

標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

◆本市の指数の経年変化



※ 平成 22 年度，24 年度は抽出調査のため除く。平成 23 年度は東日本大震災のため中止。

※ 理科（小・中）は H27 以降，3 年に 1 度実施。英語（中のみ）は，H31（R1）以降，3 年に 1 度実施予定。

※ 平成 31 年度（令和元年度）調査より，従来の A・B 問題が統合されたため別表とする。

◆分析・問題例

<国語>

- 平均正答率は，全国平均を 0.2 ポイント上回っています。
- 領域別では，「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において，全国平均を上回り，「話すこと・聞くこと」は全国と同等となっています。
- 一方，問題形式別では選択式問題に課題が見られます。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

■大問 1 情報を読む（新聞）

- ・三 文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えを書く問題
正答率 **92.2%**（全国平均 **91.2%**） 無解答率 1.2%（全国平均 1.7%）

■大問 2 話合いをする（文化祭）

- ・三 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えを書く問題
正答率 **61.3%**（全国平均 **60.4%**） 無解答率 7.2%（全国平均 8.9%）

■大問 3 意見文を書く（地域の店）

- ・二 伝えたい事柄について，根拠を明確にして書く問題
正答率 **80.8%**（全国平均 **77.8%**） 無解答率 6.0%（全国平均 7.9%）

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

■大問 1 情報を読む（新聞）

- ・二 文章の展開に即して情報を整理し内容を捉える問題
正答率 **60.4%**（全国平均 **61.5%**） 無解答率 0.1%（全国平均 0.1%）

■大問 2 話合いをする（文化祭）

- ・一 話合いの話題や方向を捉える問題
正答率 **79.9%**（全国平均 **80.4%**） 無解答率 0.1%（全国平均 0.2%）
- ・二 相手に分かりやすく伝える表現について理解する問題
正答率 **69.4%**（全国平均 **69.7%**） 無解答率 0.2%（全国平均 0.3%）

<数学>

- 平均正答率は、全国平均を1.2ポイント上回っています。
- 領域別では、「図形」「数と式」に関する問題の正答率が高くなっています。一方で、「関数」でグラフを事象に即して解釈する力、「図形」や「資料の活用」では文章やデータを見て、理由を説明する力に課題が見られました。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- 大問 4 比例, 反比例
反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができるかを問う問題
正答率 **56.5%** (全国平均 **48.9%**) 無解答率 8.4% (全国平均 10.4%)
- 大問 6 事象の数学的な解釈と問題解決の方法 (冷蔵庫)
 - ・(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかを問う問題
正答率 **36.7%** (全国平均 **34.7%**) 無解答率 8.7% (全国平均 11.6%)
- 大問 8 分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること (図書だより)
 - ・(1) 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができるかを問う問題
正答率 **62.3%** (全国平均 **57.9%**) 無解答率 8.4% (全国平均 10.6%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- 大問 3 平面図形
平行移動の意味を理解しているかを問う問題
正答率 **83.2%** (全国平均 **83.6%**) 無解答率 0.6% (全国平均 0.7%)
- 大問 7 証明することや反例をあげることを通して、統合的・発展的に考察すること (四角形の条件変え)
 - ・(1) 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかを問う問題
正答率 **74.8%** (全国平均 **75.8%**) 無解答率 5.7% (全国平均 5.2%)
- 大問 8 分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること (図書だより)
 - ・(2) 資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明できるかを問う問題
正答率 **39.8%** (全国平均 **40.8%**) 無解答率 17.6% (全国平均 21.3%)

<英語>

- 平均正答率は、全国平均と同等の結果となっています。
- 領域別では、「読むこと」「書くこと」では全国平均を上回っています。一方で、「聞くこと」は約7割の正答率となっていますが、全国平均をやや下回っています。
- 観点別では、「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」のいずれにおいても全国平均を上回っています。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- 大問 1 情報を正確に聞き取る
 - ・(2) 授業で使われる英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができるかを問う問題
正答率 **89.5%** (全国平均 **88.6%**) 無解答率 0.2% (全国平均 0.1%)
- 大問 8 読んだ内容について適切に応じる
書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるかを問う問題
正答率 **13.8%** (全国平均 **10.9%**) 無解答率 22.9% (全国平均 27.9%)
- 大問 9 話や文法事項等を理解して正しく文を書く
 - ・(3)② 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるかを問う問題
正答率 **37.6%** (全国平均 **32.9%**) 無解答率 7.2% (全国平均 9.3%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- 大問 1 情報を正確に聞き取る
 - ・(3) 日常的な話題について、情報を正確に聞き取れるかを問う問題
正答率 **70.6%** (全国平均 **72.3%**) 無解答率 0.2% (全国平均 0.2%)

- 大問 5 情報を正確に読み取る
 - ・(3) 日常的な話題について、簡単な文で書かれた内容を正確に読み取ることができるかを問う問題
正答率 **71.9%** (全国平均 **73.1%**) 無解答率 0.4% (全国平均 0.4%)
- 大問 9 語や文法事項等を理解して正しく文を書く
 - ・(1)② 文の中で適切に接続詞を用いることができるかを問う問題
正答率 **53.0%** (全国平均 **58.2%**) 無解答率 0.4% (全国平均 0.5%)

3 児童生徒質問紙調査の結果について

子どもたちの確かな学力の定着・向上はもとより、豊かな学びと健やかな育ちのためには、家庭で自ら進んで学習計画を立て、それに沿って学習する家庭学習の習慣化が大切です。

また、児童生徒質問紙調査から、自己有用感や自尊感情が高い児童生徒は正答率が高い傾向にあり、学力と自己有用感は一定関連があることが分かります。自己有用感や自尊感情を育むことは、子どもたちが自らの可能性を大切に、積極的にものごとに取り組んだり、失敗を恐れずに取り組んだりする力となりますので、ご家庭でも子どもたちの頑張っている姿を応援するなどしてみてください。

さらに、地域や社会とのつながりを意識したり、海外・外国の人など多様な文化や習慣をもつ人々とのつながりに関心を持つなど、地域や社会、他者に関わる力を育むことは、家庭・地域・学校における継続的な取組が重要であることが読み取れる結果となっています。

ここでは、「学習時間・家庭学習」「基本的生活習慣」「読書」「自己有用感、規範意識等」「地域・社会、海外・外国の人とのつながりに対する関心」等の項目と学力との関連を分析しています。

京都市立学校の結果からは、学習時間や家庭学習、読書時間などの項目等において、小学校では改善傾向が見られるものの、中学校では引き続き課題が見られました。また児童生徒の学校生活・社会生活への意識や学習に対する関心・意欲・態度については、肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」又は「している」、「どちらかといえば、している」）をした児童生徒の割合が全国平均を上回る項目もありましたが、全体を通して良好とはいえない状況があります。

(1) 学習時間・家庭学習

授業以外で「平日1日1時間以上勉強する」児童生徒は、平成30年度と比べて小学校で増加し、中学校で減少しています。また、「30分より少ない」「全くしない」と答えた児童生徒は、平成30年度と比べて中学校で増加しており、小学校では減少したものの、いずれも全国平均より高い結果で、小学校は、10人に1人が、中学校は、5人に1人が「30分より少ない」、「全くしない」状況です。

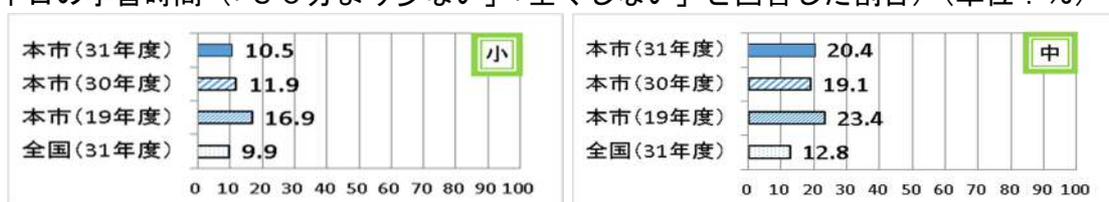
小・中学校ともに、「計画的な学習に取り組んでいる児童生徒ほど、平均正答率が高く、平日の学習時間の長さとも一定関連が見られますが、「家での計画的な学習」を「している」と答えた児童生徒の割合は、全国平均と比べて小学校では高いものの、中学校では低い傾向にあります。また「計画的な学習」を「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒については、小・中学校とも全国平均を上回り、特に中学校では約8ポイント程度上回っています。

○平日の学習時間（「1時間以上」と回答した割合）（単位：％）

* 授業以外、また学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む（以下同じ）



○平日の学習時間（「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合）（単位：％）



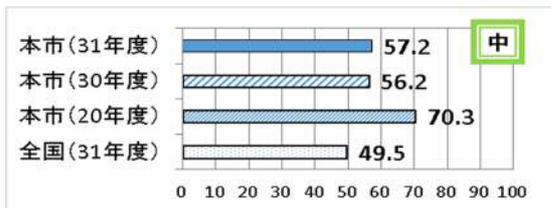
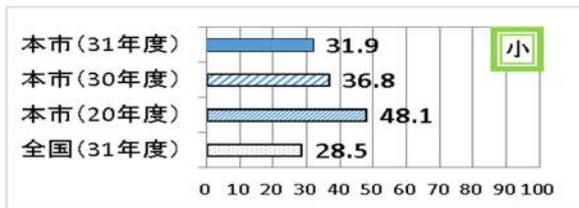
【京都市立小学校 クロス集計】 *その他・無回答を除くため、児童生徒数の割合の合計は必ずしも100%とはならない(以下同じ)

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
3時間以上	17.5%	78.6%	79.3%
2時間以上、3時間より少ない	18.3%	69.7%	69.9%
1時間以上、2時間より少ない	31.3%	66.3%	67.5%
30分以上、1時間より少ない	22.3%	63.4%	65.0%
30分より少ない	7.7%	56.0%	59.0%
全くしない	2.8%	51.6%	52.8%

【京都市立中学校 クロス集計】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
3時間以上	12.2%	77.6%	67.9%	64.2%
2時間以上、3時間より少ない	23.7%	75.1%	64.2%	60.3%
1時間以上、2時間より少ない	28.4%	74.0%	62.0%	57.3%
30分以上、1時間より少ない	15.2%	72.6%	59.3%	53.8%
30分より少ない	12.1%	70.0%	54.7%	50.2%
全くしない	8.3%	64.1%	48.4%	45.5%

○家での計画的な学習(「あまりしていない」「全くしていない」と回答した割合)(単位: %)



【京都市立小学校 クロス集計】

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
している	28.8%	73.1%	73.3%
どちらかといえば、している	39.3%	68.2%	69.4%
あまりしていない	26.7%	62.0%	64.0%
全くしていない	5.2%	54.3%	55.9%

【京都市立中学校 クロス集計】

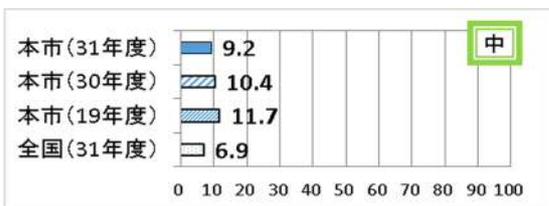
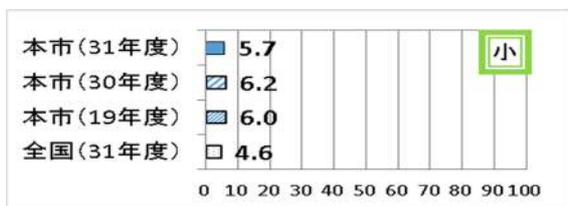
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
している	11.3%	76.5%	66.1%	62.1%
どちらかといえば、している	31.3%	75.8%	64.1%	59.4%
あまりしていない	41.5%	72.7%	59.7%	55.0%
全くしていない	15.7%	66.8%	53.5%	50.4%

(2) 基本的生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」という項目に「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した児童生徒は平成30年度より減少したものの、全国平均より高く、**小学校では20人に1人程度、中学校では10人に1人程度の子どもたちが朝食をあまり食べていない・全く食べていないことがわかります。**

朝食を食べることをはじめとする基本的生活習慣の確立は、子どもたちの「知・徳・体」を育むうえでとても重要なことです。ご家庭での習慣づけ、働きかけをお願いいたします。

○朝食を毎日食べている(「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した割合)(単位: %)



【京都市立小学校 クロス集計】

朝食を毎日食べていますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
している	84.2%	68.9%	69.9%
どちらかといえば、している	10.1%	60.3%	61.9%
あまりしていない	4.6%	56.2%	59.3%
全くしていない	1.1%	45.2%	51.3%

【京都市立中学校 クロス集計】

朝食を毎日食べていますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
している	78.2%	74.9%	63.3%	58.2%
どちらかといえば、している	12.7%	68.7%	54.4%	51.7%
あまりしていない	6.6%	65.6%	49.2%	48.3%
全くしていない	2.6%	60.9%	46.8%	46.9%

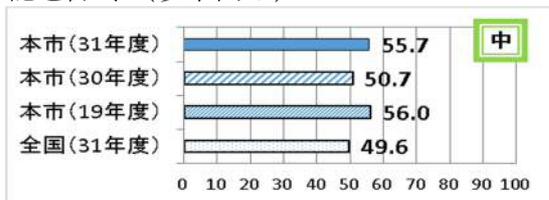
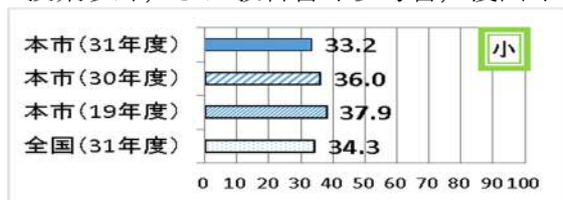
(3) 読書

「読書時間が10分よりも少ない」児童生徒は、小学校では全国より少なく平成30年度より減少しています。しかし、中学校では全国より多く、平成30年度よりも増加しており、中学生の読書離れが懸念されます。

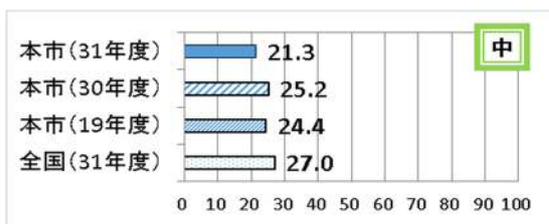
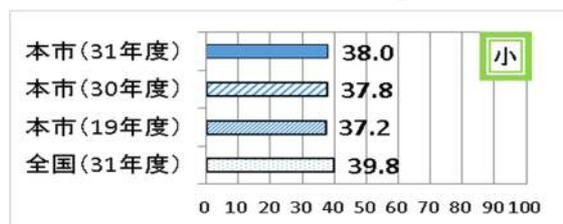
小・中学校ともに、「平日に読書を全くしないという児童生徒のグループの平均正答率は、読書をする児童生徒のグループと比べて低く」なっています。

○読書時間（「10分よりも少ない」と回答した割合）（単位：％）

*授業以外、また教科書や参考書、漫画や雑誌を除く（以下同じ）



○平日の読書時間（「30分以上」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
2時間以上	7.2%	70.9%	70.3%
1時間以上、2時間より少ない	10.3%	71.3%	70.9%
30分以上、1時間より少ない	20.5%	71.5%	71.8%
10分以上、30分より少ない	28.8%	68.4%	69.6%
10分より少ない	16.1%	63.4%	64.9%
全くしない	17.1%	59.9%	63.4%

【京都市立中学校 クロス集計】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
2時間以上	4.1%	72.5%	57.9%	55.6%
1時間以上、2時間より少ない	5.9%	74.3%	61.8%	57.0%
30分以上、1時間より少ない	11.3%	76.5%	65.2%	58.9%
10分以上、30分より少ない	22.9%	77.1%	65.3%	59.6%
10分より少ない	18.2%	75.0%	62.5%	58.3%
全くしない	37.5%	68.8%	56.1%	52.9%

(4) 自己有用感, 規範意識等

「自分には、よいところがあると思いますか」という項目に「当てはまる」と回答した児童生徒は、平成30年度と比較して減少し、依然として全国平均を下回る結果となっています。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに全国平均より低く、減少傾向となっています。さらに「学校のきまり・規則を守っていますか」という項目に「当てはまる」と回答した児童生徒は、前年度と比べると小・中学校ともに増加していますが、全国平均を下回っています。特に、小学校では、「学校のきまり」を守る児童は、全国平均に比べて約3ポイント下回り、「学校の規則を守る」生徒は、全国平均を約10ポイント近く下回る結果となっています。

他にも「いじめはいけないことだと思いますか」という項目に、「当てはまる」と回答した児童生徒は全国平均を上回りました。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目に、「当てはまる」と回答した児童生徒は、小学校では全国平均を上回っていますが、中学校では依然として全国平均を下回っています。

また、全国的な傾向として「自分にはよいところがある」や「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」という項目において、肯定的な回答をした児童生徒のグループの平均正答率が高くなる傾向があります。児童生徒の自己有用感や自尊感情を育みながら学びと育ちを見守ることが大切です。

さらに、「学校のきまりや規則を守っていますか」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目においても、全国的な傾向として肯定的な回答をした児童生徒のグループの平均正答率が高くなっています。

○自分には、よいところがあると思う（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

自分には、よいところがあると思いますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	36.2%	70.3%	71.0%
どちらかといえば、当てはまる	43.9%	67.8%	68.9%
どちらかといえば、当てはまらない	14.9%	61.6%	63.7%
当てはまらない	5.0%	56.8%	58.4%

【京都市立中学校 クロス集計】

自分には、よいところがあると思いますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	25.7%	74.0%	62.5%	58.2%
どちらかといえば、当てはまる	46.9%	74.3%	62.3%	57.4%
どちらかといえば、当てはまらない	20.2%	71.8%	57.8%	54.1%
当てはまらない	7.0%	67.2%	53.6%	51.1%

○先生はあなたのよいところを認めてくれている（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



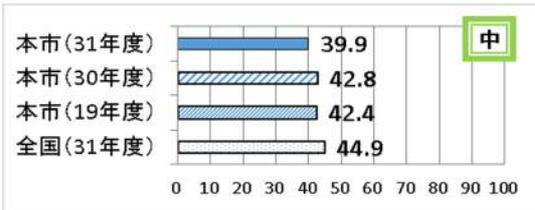
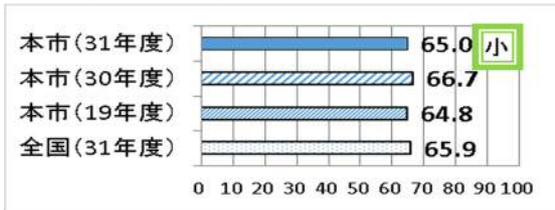
【京都市立小学校 クロス集計】

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	40.6%	69.7%	70.2%
どちらかといえば、当てはまる	45.8%	67.1%	68.5%
どちらかといえば、当てはまらない	10.8%	60.5%	62.9%
当てはまらない	2.7%	58.1%	60.2%

【京都市立中学校 クロス集計】

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	27.9%	74.6%	62.4%	58.1%
どちらかといえば、当てはまる	54.3%	74.2%	62.0%	57.2%
どちらかといえば、当てはまらない	13.7%	69.6%	55.9%	52.4%
当てはまらない	3.8%	62.3%	51.0%	49.5%

○将来の夢や目標を持っている（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



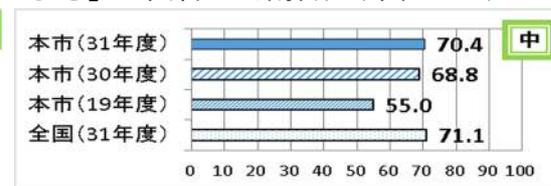
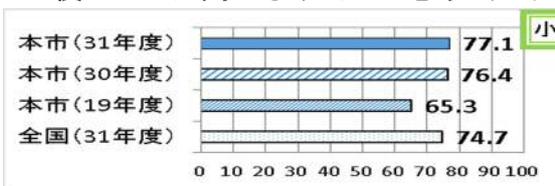
【京都市立小学校 クロス集計】

将来の夢や目標を持っていますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	65.0%	67.4%	68.3%
どちらかといえば、当てはまる	17.9%	68.9%	70.2%
どちらかといえば、当てはまらない	10.0%	66.6%	68.4%
当てはまらない	7.1%	62.1%	64.6%

【京都市立中学校 クロス集計】

将来の夢や目標を持っていますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	39.9%	72.7%	59.0%	56.3%
どちらかといえば、当てはまる	26.0%	74.1%	62.5%	57.7%
どちらかといえば、当てはまらない	20.4%	75.1%	63.9%	57.3%
当てはまらない	13.5%	69.9%	58.2%	53.5%

○人の役に立つ人間になりたいと思う（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



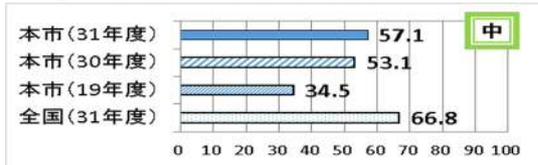
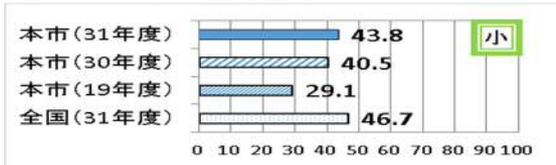
【京都市立小学校 クロス集計】

人の役に立つ人間になりたいと思いますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	77.1%	69.3%	70.1%
どちらかといえば、当てはまる	18.6%	62.0%	64.2%
どちらかといえば、当てはまらない	3.3%	55.0%	58.7%
当てはまらない	1.0%	46.9%	47.5%

【京都市立中学校 クロス集計】

人の役に立つ人間になりたいと思いますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	70.4%	74.5%	62.2%	57.7%
どちらかといえば、当てはまる	24.6%	71.3%	58.4%	54.3%
どちらかといえば、当てはまらない	3.4%	64.3%	52.6%	50.1%
当てはまらない	1.4%	63.3%	52.8%	47.9%

○学校のきまり・規則を守っている（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



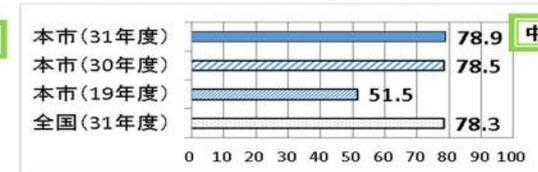
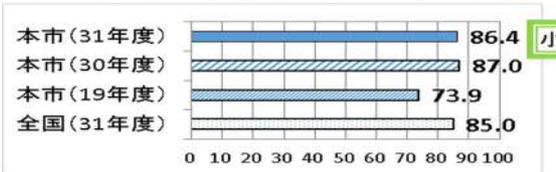
【京都市立小学校 クロス集計】

学校のきまりを守っていますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	43.8%	69.4%	69.6%
どちらかといえば、当てはまる	48.4%	66.9%	68.6%
どちらかといえば、当てはまらない	7.0%	58.1%	61.4%
当てはまらない	0.8%	50.3%	52.1%

【京都市立中学校 クロス集計】

学校の規則を守っていますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	57.1%	75.0%	63.5%	58.2%
どちらかといえば、当てはまる	37.9%	72.3%	59.2%	55.3%
どちらかといえば、当てはまらない	4.0%	60.3%	44.1%	46.2%
当てはまらない	0.9%	50.1%	33.6%	37.7%

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	86.4%	68.1%	68.9%
どちらかといえば、当てはまる	10.9%	63.2%	66.5%
どちらかといえば、当てはまらない	1.7%	58.0%	61.1%
当てはまらない	0.9%	54.8%	54.5%

【京都市立中学校 クロス集計】

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	78.9%	73.3%	60.7%	56.6%
どちらかといえば、当てはまる	16.5%	73.9%	62.3%	56.6%
どちらかといえば、当てはまらない	3.3%	69.1%	56.8%	52.8%
当てはまらない	1.1%	68.6%	60.4%	54.5%

(5) 地域・社会、海外・外国の人とのつながりへの関心

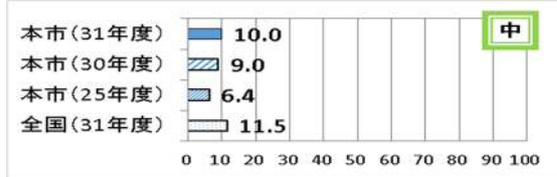
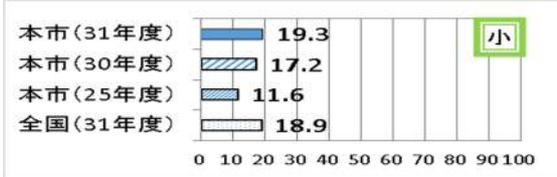
全国的な傾向として、小学生から中学生へと進学するにしたがって、地域・社会の出来事への関心が希薄化する傾向があります。本市では、平成30年度と比べて、小・中学校ともに地域・社会へ関心がある児童生徒の割合は増加しました。全国平均と比べると、小学校では前年度と同様、全国平均より高く、中学校では全国平均を下回る結果となりました。

また、海外との繋がりや外国の人との繋がりへの関心を問う項目に対しては、小中学校ともに、平成29年度を下回る結果となりましたが、全国平均より高い結果でした。

学力との関係については、「地域・社会をよくするために自分ができること」を問う項目と「海外・外国の人との繋がり」への関心を問う項目において、「**肯定的な選択肢を回答した児童生徒のグループの平均正答率が高い**」傾向を示すものであり、これは、全国的な傾向でもあります。

学校での学びとともに、地域や社会との関わり等を通して、実際に体験したり、何らかの役割を担ったりする等、子どもたちが様々な体験・経験を積み重ねていくことの重要性が伺えます。

○地域や社会をよくするために何をすべきか考える（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



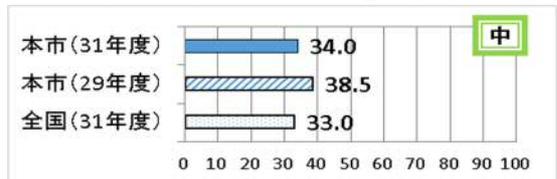
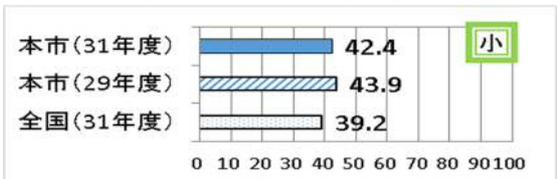
【京都市立小学校 クロス集計】

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	19.3%	70.1%	70.9%
どちらかといえば、当てはまる	34.4%	68.6%	69.2%
どちらかといえば、当てはまらない	33.5%	65.6%	67.5%
当てはまらない	12.7%	63.7%	64.8%

【京都市立中学校 クロス集計】

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	10.0%	73.8%	61.9%	57.9%
どちらかといえば、当てはまる	27.1%	74.2%	62.5%	57.8%
どちらかといえば、当てはまらない	40.2%	74.4%	61.9%	56.7%
当てはまらない	22.6%	69.6%	56.4%	53.8%

○外国の人と友達になったり、外国のことについて知りたい（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか	児童数割合	平均正答率	
		国語	算数
当てはまる	42.4%	69.1%	69.8%
どちらかといえば、当てはまる	29.4%	67.6%	68.9%
どちらかといえば、当てはまらない	18.5%	66.1%	67.6%
当てはまらない	9.6%	60.0%	62.1%

【京都市立中学校 クロス集計】

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	34.0%	75.8%	62.9%	60.4%
どちらかといえば、当てはまる	32.0%	74.0%	62.1%	56.9%
どちらかといえば、当てはまらない	20.4%	72.3%	59.9%	54.4%
当てはまらない	13.4%	66.1%	54.0%	49.0%

(6) 英語学習への興味・関心について（中学校調査）

今回初めて実施された英語調査（4技能）は、全国・本市ともに平均正答率は56.0%でした。結果公表の対象外ですが、各校のPC端末で、調査プログラムの音声指示に従いながら解答するという新たな調査形式の「話すこと」調査も行われました。

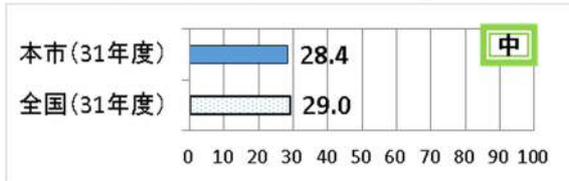
生徒質問紙の結果を見ると、「英語の授業はよく分かる」「英語の勉強は大切だと思う」「英語の学習は将来役に立つ」の項目で「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均より高く、一方で、「英語の勉強は好き」で「当てはまる」と回答した生徒の割合は全国平均をやや下回る結果となりました。

この結果は、本市の子どもたちが、英語の授業はよく分かり、英語が将来役に立つことも理解している一方で、中学校3年生になると、語彙や文法が増えるなど、英語学習が難しくなるため、苦手意識があることを示しているのではないかと考えています。

また、全国的な傾向として、「英語の勉強は好き」「英語の授業はよく分かる」「将来、積極的に英語を使うような生活や職業に就いたりしたいと思う」など、生徒質問紙の英語に関する項目すべてで、肯定的な回答をした生徒ほど平均正答率が高い傾向となりました。今後、より一層英語に親しみ、英語の“楽しさ”を知る機会の充実が必要であることが分かります。

※ 4技能とは、「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」。文部科学省から結果公表がなされたのは、「話すこと」を除く3技能のみ。本項で扱う値は、英語（3技能）に基づく値です。

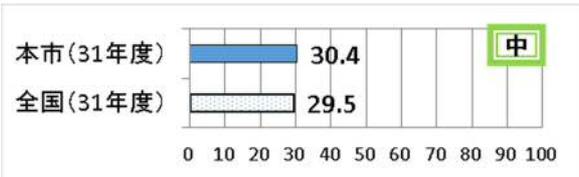
○英語の勉強が好き（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立中学校 クロス集計】

英語の勉強は好きですか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	28.4%	78.6%	67.4%	66.2%
どちらかといえば、当てはまる	27.2%	75.2%	64.0%	59.0%
どちらかといえば、当てはまらない	23.1%	71.9%	58.6%	52.1%
当てはまらない	21.2%	64.8%	50.2%	45.0%

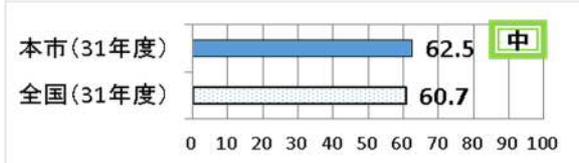
○英語の授業はよく分かる（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立中学校 クロス集計】

英語の授業はよく分かりますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	30.4%	78.6%	68.2%	65.9%
どちらかといえば、当てはまる	37.9%	74.8%	63.2%	57.7%
どちらかといえば、当てはまらない	20.0%	68.9%	54.5%	48.5%
当てはまらない	11.6%	61.0%	44.5%	41.4%

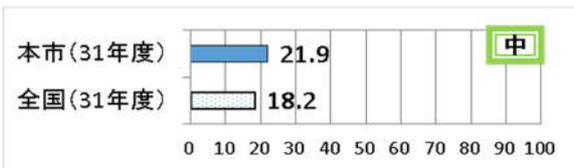
○英語の学習は将来役に立つ（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立中学校 クロス集計】

英語の授業で学習したことは、将来、社会に出るときに役に立つと思いますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	62.5%	76.2%	64.7%	60.2%
どちらかといえば、当てはまる	24.7%	70.9%	57.7%	52.8%
どちらかといえば、当てはまらない	7.7%	65.6%	50.3%	47.3%
当てはまらない	5.0%	58.8%	43.9%	42.4%

○将来、積極的に英語を使う生活や職業に就きたい（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立中学校 クロス集計】

あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	生徒数割合	平均正答率		
		国語	数学	英語
当てはまる	21.9%	75.9%	63.7%	62.1%
どちらかといえば、当てはまる	25.2%	74.1%	62.2%	58.7%
どちらかといえば、当てはまらない	29.3%	73.3%	61.7%	55.7%
当てはまらない	23.1%	69.5%	55.5%	49.9%

4 京都市の学力向上の取組

本市では、子どもたちが身につけておくべき「確かな学力」を、「基礎的・基本的な知識・技能」、「習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、さらに「学ぼうとする意欲」「生涯にわたって学び続ける力」と定義しています。そして、熱意溢れる教職員の実践はもとより、保護者・地域の皆様のご協力のもと、「確かな学力」とともに、「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を目指しています。

(1) 京都市小中一貫学習支援プログラムの実施及び結果分析に基づいた授業改善

本市では、小・中学校の接続を意識し、宿題を含む予習や復習と既習事項が定着したかどうかをみる確認テストの実施などを通して、**自学自習の学習習慣（計画→事前学習→確認テスト→結果→事後学習）**を身につけるためのプログラムを実施しています。

確認テストを通して、子どもたちがつまずきやすいポイントや学力の定着に課題が多い単元・領域に関するデータが蓄積されています。それらのデータや全国調査の結果をもとに、本市独自の分析システムにより多面的で詳細な結果分析を行い、教職員間、さらに小・中学校間でその情報を共有し授業改善に活かしています。

ご家庭においても、確認テストの実施後に返却される、苦手なところや得意なところなどをまとめた結果資料を子どもたちと一緒にご覧いただき、家庭学習をはじめとする自学自習の習慣化に向けて、本プログラムで配布される事前学習教材や事後学習教材等をご活用ください。

学年	時期	教科	名称
小3	1月	国語, 社会, 算数, 理科	プレ ジョイント プログラム
小4	8~9月	国語, 算数	
	1月	国語, 社会, 算数, 理科	
小5	8~9月	国語, 算数	ジョイント プログラム
	1月	国語, 社会, 算数, 理科	
小6	8~9月	国語, 算数	
	1月	国語, 社会, 算数, 理科	
	4月(中1)	国語, 算数	
中1 (7)	10月	国語, 社会, 数学 理科, 英語	学習確認 プログラム
	1~2月		
中2 (8)	7月		
	10月		
	1~2月		
中3 (9)	5月		
	10月		

(2) 小中一貫教育の更なる推進・充実

本市では、「小中一貫教育目標の設定」、「教育課程／指導形態の工夫・改善」、「教育活動の連続性の確保」、「教職員間の連携・協働」及び「家庭・地域との連携・協力」を小中一貫教育推進に関する「5つの視点」として定め、平成23年度から全ての中学校区で義務教育9年間の学びと育ちを見通した「小中一貫教育」をそれぞれの学区の状況に応じて進めています。

平成27年度末には、これまでの小中一貫教育の成果や課題を踏まえ、5つの視点に基づく取組をさらに推進するための指針である「京都市小中一貫教育ガイドライン（試案）」を策定しました。現在全ての中学校区において、義務教育卒業時の「目指す子ども像」とその実現に向けた「つきたい力」と「軸となる取組・活動」などを明らかにした「小中一貫教育構想図」を作成し、具体的な実践に取り組むなど、各中学校区の状況に応じた小中一貫教育の更なる充実を図っています。

(3) 授業等での指導の工夫・改善

各校における日々の指導においても、**授業での学習の「めあて」の提示と「ふりかえり」の実施や、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す「学び合い」のある授業づくりの工夫等**、従来からの取組をさらに高めるとともに、校長のリーダーシップのもと「**教職員が主体的に組織的な指導を徹底して行う**」学校組織とチェック体制づくりを進めています。

(4) 新学習指導要領を見据えた教育課程の編成

新学習指導要領が令和2年度から小学校で、令和3年度から中学校で施行されます。学校は学校教育目標の実現に向けて、組織的・計画的に学びを展開するために、教科横断的な学習実践、PDCA

サイクルの導入，地域の人的・物的資源の活用を踏まえながら，各校それぞれの特色を生かし，適切な教育課程を編成するカリキュラム・マネジメントを実施します。

令和2年度からの小学校における変更点として，3・4年生の「外国語活動」の導入，5・6年生の教科「外国語」の導入，5年生の算数及び6年生の理科の一部単元における「プログラミング教育」の導入が挙げられます。カリキュラム・マネジメントの観点から，各校において外国語，プログラミング教育の指導内容を教科横断的に配列し，円滑な導入に向けて計画的・組織的に取り組みます。

(5) 学力向上に向けた学校への支援

本市では，基礎的・基本的な学力の定着に一定の取組が必要と認められる中学校区や学力向上に積極的に取り組もうとする中学校区に対して，教育委員会の学力向上プロジェクトチームが中心となって，中学校区及び各校の学力向上対策に関して，情報交換会や研修会の開催，教員向け研修・指導資料の作成，家庭学習の充実に向けた児童生徒・保護者への発信，学校の取組に対する定期的な評価の実施など，重点的な支援を行っています。

(6) 保護者・地域との連携による家庭学習への支援

本市では，学校運営協議会（令和元年9月末現在248校園に設置。小学校は全校設置）をはじめ，地域の方々・保護者・学生ボランティアの参画のもと，「土曜学習」^{※1}や「放課後まなび教室」^{※2}，「未来スタディ・サポート教室」^{※3}などの取組により，家庭学習や自学自習の習慣の確立，基礎学力の定着に努めています。

教室での学習だけではなく，学校運営協議会や地域が主催する行事，「みやこ子ども土曜塾」^{※4}などにおける自然体験や伝統文化体験などの体験学習，防災・安全の取組など，子どもたちが地域の方と交流する活動も大切にしています。地域の方々に支えられているという意識や，地域の一員として主体的に関わろうとする意識を子どもたちに育む貴重な機会として，学力の基盤を形成する学ぶ意欲や態度だけでなく，自尊感情や自己肯定感を高めていくものと期待しています。

その他，「本」大好きな子どもの育成を目的とする読書ノートを活用した「めざせ100冊！読書マラソン」運動^{※5}や規範意識を育むためのあいさつ運動，情報モラルに関する取組など，学校，家庭，地域が一体となった一つ一つの地道な取組の継続が，本市の子どもたちの学力を支えています。

また，小・中学校入学時（小中学校においては入学時及び後期課程進学時）に子どもたちへ配布している冊子「自学自習のすすめ」において，学力向上を図るうえで大切な家庭学習のヒントをわかりやすくまとめています。子どもたちと一緒に，是非ご一読ください。

※1 「土曜学習」…平成23年度から全ての小・中学校で，土日祝日などの学校休業日に，学校運営協議会や保護者，地域，学生等の方々の支援をいただき，学習活動や体験活動を行っています。

※2 「放課後まなび教室」…平成21年度から全ての小学校区で，学校運営協議会や保護者，地域，学生等の方々の参画を得ながら，放課後の子どもたちに学習の習慣づけを図る『自主的な学びの場』と『安心・安全な居場所』として，運営しています。

※3 「未来スタディ・サポート教室」…平成29年度以降すべての中学校で，家庭環境に関わらず，全ての子どもたちが可能性を最大限に伸ばし，自らの未来を切り拓いていけるよう，放課後等に基礎学力の定着を図るための学習支援を行っています。

※4 「みやこ子ども土曜塾」…平成16年度から，土日祝日や夏休みなどの学校休業日に青少年団体や大学，企業，NPO等が実施する伝統文化・自然活動等の体験活動をホームページ及び広報紙「京都是ぐくみ通信／G o G o土曜塾」で発信し，平成30年度は3,910もの企画が登録される等，京都ならではの多様な資源を生かしたさまざまな学びの場についての情報を提供しています。

※5 「めざせ100冊！読書マラソン」運動…100冊読破達成児童数は平成30年度27,672人（全児童の45.2%）に上ります。

5 保護者・市民の皆様へ

子どもたちは、一つ一つの学習を積み上げていくことを通して、知識を増やし、できることを広げ、物事への理解を深めていきます。この地道な営みが、自立した社会の一員としてよりよく生きるうえで支えともなる子どもたちの個性を伸ばし、可能性を高め、自分らしい生き方を実現する原動力を培います。こうした成長の過程を支え、質・量ともに豊かにしていくことが学校、そして、家庭や地域を含めた大人社会の役割ではないでしょうか。

「京都市小中一貫学習支援プログラム」や「小中一貫教育」など、本市の学力向上に向けた主な取組も紹介しましたが、こうした取組とともに、学校運営協議会やPTAをはじめ、多くの方々のご協力のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの学習環境を整えていただいております。

こうした取組の成果が、**全国平均を上回り政令市トップ水準となる本市の平均正答率**はもとより、**全国平均以下の無解答率が示している「最後まで諦めない粘り強い態度」**や**家庭学習時間**、**自尊感情や規範意識の高まり**に表れています。同時に今回の調査結果は、**各教科において改善が求められる分野・観点**、また、**家庭学習・読書習慣の定着**や、**自己有用感**、**地域活動との関わり**など、**必ずしも良好と言えない課題が存在していることを示唆**しています。

これらの調査結果を子どもたちの学力向上に活かすために、**学校では、調査結果を詳細に分析し、調査を実施した学年だけではなく、全学年において指導の改善につなげてまいります。**また、**子どもたち自身も自らの学習や生活をふり返る機会として、家庭学習をはじめとした自学自習のサイクルにおいて問題の復習や、結果を踏まえた次の目標設定を行い、今後の学習や生活の充実につなげる**ことが重要です。このため、各校ごとにこれまでの取組の成果と課題をまとめ、「学校だより」等でわかりやすく公表し、教職員はもとより、保護者・地域の皆様と情報を共有して、指導方法の工夫や家庭学習の充実等に活かしてまいります。

学力向上は「開かれた学校づくり」の下、学校・保護者・地域が一丸となって取り組むことが大切です。全国的に教職員の長時間勤務が大きな問題となる中、本市においても平成31年3月に、PTAや校長会とともに「学校・幼稚園における働き方改革推進宣言」を策定いたしました。今後とも保護者・地域の皆様のご理解をいただきながら、教職員が子どもと向き合える時間を確保し、質の高い教育活動が実践できるよう環境整備に取り組んでまいります。ご家庭や地域においても、子どもたちが夢と希望を持って、自分らしい生き方を実現できるよう、今回の調査結果をもとに、子どもたちの状況に即した取組をとともに考え、行動していただくことをお願いいたします。

具体的には、**子どもたちをあたたく見守り、励ましていただくとともに、子どもたちが主体的に学び、活躍できる場面**を設けていただくことが重要だと考えます。**学力向上の基盤となる家庭での学習機会の充実・朝食を毎日食べる等の基本的な生活習慣の確立・読書習慣の定着・体験活動の充実・自尊感情の向上**に関して、引き続きご協力・ご支援いただきますようお願いいたします。